

令和8年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

中学校 技術・家庭科

改善の重点

- ① 育成を目指す「資質・能力」を明確化し、3学年間を見通した題材の指導計画（評価計画を含む）を作成すること。
- ② 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、「見方・考え方」を働かせ、題材を見通しながら、生徒の実態に応じた問題解決的な学習を一層充実させること。また、学習指導案に「C努力を要する状況」の生徒に対する具体的な手立てを記載すること。

1 設定理由

中学校学習指導要領第2章第8節技術・家庭の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」には、「題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、知識を相互に関連付けてより深く理解するとともに、生活や社会の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ること」と示されている。技術・家庭科において育成を目指す資質・能力を育むためには、題材ごとに「見方・考え方」を働かせて、問題解決に取り組む学習過程を計画的に位置付けることが重要である。

また、3学年間を見通した指導計画（評価計画を含む）を作成する際には、生徒や学校、地域の実態を踏まえながら、題材を通してどのような資質・能力を育成するのかを明確化することが求められる。

さらに、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど課題を解決する力を育成することが求められる。そのためには、題材を見通した問題解決的な学習を充実させるとともに、具体的な評価基準に基づく生徒の学習状況を見取る方法を工夫し、「C努力を要する状況」の生徒に対する手立てを講じることが重要である。

このようなことを踏まえて研究を進め、生徒の発達段階や技術・家庭科の特質を踏まえた教育活動に取り組むこととする。

2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 3学年間を見通し、題材において「見方・考え方を働かせ、どのような資質・能力を育むのか」を具体化し、指導計画に明記すること。また、題材の中で評価の場面や方法についても具体的に明記すること。
- ② 生徒の身近な生活との関わりや社会とのつながりを重視し、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定すること。その際、学習指導要領解説に示された学習過程（P23,P65）を参考にしながら、解決策の構想、実践、評価・改善へと学びが深まり、発展する題材及び授業を構想すること。

(2) 参考とすべき資料

- ① 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）
- ② 早わかり！単元計画の作成手順（大分県教育庁義務教育課 Web サイト）